

舞鶴市農業委員会

舞鶴市農業委員会は、おむね中学校区エリアの市内6ブロックで「地区別会議」を開催。農業委員と農地利用最適化推進委員がワークショップ形式で「地域の未来を創るアイデア」を出し合う活動を進めている。

地区別会議では、参加者が付箋に「地域でやってみたいと思うこと」を書いて、模造紙に貼り出し「見える化」。委員間で共有し、取り組みの合意形成を図っている。

過疎高齢化に伴う人口減少や深刻な鳥獣害など課題は多いが、「ドローン活用や草刈り隊組織など、集落を越えた農作業応援の仕組みをつくりたい」「移住促進や市民農園など、地域外のひとと一緒に取り組みたい」と

「明るく前向きな雰囲気」でアイデアを出し合い、委員の一体感が生まれたと吉田雅樹事務局長、農業委員と推進委員として地域活動を推進する意識が共有されているという。

農業委員会と市農林課は、昨年度、市内の農家(約2400戸)を対象に、
—農家・農地調査—を共同で実施。本年度は、地区別にまとめた集計結果をもとに、「京丹波」場プランの話し合いを農業委員会委員がリードし、プラン実現に向けた取り組みを推進していく計画だ。



農業委員と推進委員による農家アンケート調査票作成会議

未来志向でアイデア出し合おう！

ワークショップ 地区別会議で「取り組みたいこと」共有



白糸青葉地区(写真上)と城北城南地区(同下)のアイデア

市外の方から「農地を借りた」と相談があれば、農業委員会が丁寧に対応し、直近の1年間に30〜50歳の3人が綾部市内の農地(それぞれ約20アール)を借りて新規参入。今年から、水稲、野菜、花きなどの栽培を開始した。

このうち2人は、大阪府と滋賀県から家族で移住就農し、1人は福知山市から通作している。

新規参入が成功する秘訣は、農業委員会の委員と事務局の連携プレーだ。事務局が電話相談と面談で希望

3人の担い手が誕生！

綾部市農業委員会

を丁寧に聴き取り、希望条件にあう地区の担当委員(農業委員と農地利用最適化推進委員)に連絡。地元農家の意向に詳しい委員が貸借可能な農地を選定して参入希望者に紹介し、それぞれ利用権設定による貸借が成立した。

3人の新規参入を支援した事務局の大島担当長は「委員と連携した丁寧な対応で、本年度も参入希望者の定着につなげたい」と意欲的だ。(綾部市農業委員会)



遊休農地を解消し、新規参入者につないだ現場を確認する大槻祐紀委員

女性委員が「つないで発信」

私が住む伊根町筒川地域は、組合員の高齢化が進み、現在は自分一人で、野蒜、蓬、わらび、筍、町内の学校給食や朝市に山菜わさび、芹、三つ葉、クスの恵みを届けています。ウグイスの鳴き声を聞きながら山菜摘みをしていると心が安らぎます。

1999年のスペイン風邪で、当時筒川にあった最大で4軒ほどの製糸工場の従業員42人が亡くなりました。その慰霊のために建立された丹後大浮かさなように採取して、早くと口が収束するように願いますが、よから来る人に荒らされることも多く大変困っています。

十数年前に筒川山菜出荷組合を立ち上げ活動してき (伊根町農業委員会・岡田博美委員)

豊かな山菜を学校給食・朝市へ

ごごみ、野蒜、蓬、芹……



ドラえもんのにんげん岡田委員のごごみを使った給食(4月12日、本庄小学校)

「ドローンの猟犬」が大活躍

カメラ・熱センサーで追跡 鹿・猪の捕獲に成功！

京都府猟友会が実証試験



「ドローンの猟犬」に煙火搭載

(一社)京都府猟友会(西村義一会長)は、猟犬今年2月上旬から福知山市と南丹市で実証試験を行

い、あわせて鹿2頭、猪2頭の捕獲に成功した。ドローンには追跡用のカ

メラと熱センサー、拡声器が装着されており、カメラと熱センサーが鹿などを捕捉し、拡声器から猟犬の吠え声を流して追いかける。ドローン操縦者と射手が無線連絡を取り合い、射手が待ち受ける地点に追い込む。射手は手元のGPSで



ドローンの位置を確認しながら獲物を持ち受け、猟銃で仕留めるといったのが基本的な流れだ。

ドローンの場合、手間のかかる猟犬の訓練や飼育、活動中の休憩が一切不要となるほか、少人数で狩猟チームを編成できるため、狩猟者の高齢化対策としても有効という。

今回の実証試験の記録は今年中にDVDに編集される予定で、来月以降、京都府猟友会事務局に申し込むと視聴することができる。

また、本年度、府猟友会に依頼があれば現場に出向いて追い払い用ドローンの飛ばし方や追い払いの指導を行うほか、狼の追い払い実証試験に取り組みことも計画している。

京都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町4-2
府庁西別館内
075-441-3660

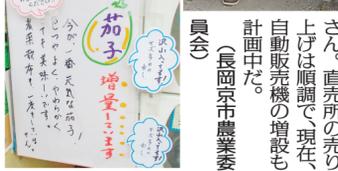
農deきらきら

長岡京市 小山 泰弘さん

「地域に愛される直売所」と評判に！

建築技術職として働いた京都市役所を12年前に退職後、父の経営を受け継いで専業農家になった小山泰弘さん(59)。今里地区の圃場(約92アール)で花菜、水稲、直売用の旬野菜や果物を露地栽培している。

当初は対面で販売していたが、農作業の時間を確保するため自宅前に自動販売機型の直売所を開設。「朝採り・新鮮・安心な旬野菜」を生産していること、父が長年続けた花菜の自家採種を今も続ける小山さん。直売所の売り上げは順調で、現在、自動販売機の増設も計画だ。(長岡京市農業委員会)



③直売所を運営する小山泰弘さん・寿美さん夫妻、④丁寧に親しみますいポップ